

令和5年が始まりました。始業式で冬休み印象に残った2つのことを話させてもらいました。1つは正月の風物詩、箱根駅伝についての話です。今回で99回目を迎えました。スタートからTV中継を見ていましたが、強豪校の有力選手がひしめく中で、トップを走ったのは無名に近い連合チームの選手でした。最後は抜かれて結果は区間3位でしたが、快走に感動し、応援にも力が入りました。後から確認して育英大学の新田颯(はやて)選手と知りました。今回のレースを最後に競技は終わるようです。皆さんの中に中継を見ていた人もいますが、頑張っている姿を見ることで勇気づけられたり、元気をもらった人もいないでしょうか。

もう一つ印象に残っていることはサッカーの話になりますが、キングカズこと三浦和良選手です。ワールドカップやJリーグ発足からトップ選手として活躍していますが、現在でも現役サッカー選手としてプレーしています。正月早々に三浦選手がサッカーの強豪国、ポルトガルのチームに移籍し新たな挑戦をされるとの報道があり、同年代の人間として「負けてられへんな」と勝手に思っています。人生、いつまでも挑戦できるということですね。スポーツ選手の活躍、頑張りを自分のエネルギーに変えていきたいと思っています。もちろん東中の皆さんの頑張りが一番の励み、刺激になっていることは言うまでもありません。本年も皆さんの活躍を楽しみにしています。

3学期、皆さんに伝えたい言葉は「切磋琢磨」です。意味は「学問や人徳を一層磨き上げること、友人同士が励まし合い競い合って共に成長すること」です。去年は「相乗効果」という言葉をよく使いました。一人一人の頑張りが学校全体にいい刺激を与えている、学校が盛り上がっているという話をしました。3学期は一人一人が自分を見つめ直し、自分をどのように成長させていくか、自分をどのように磨いていくかを考えてほしいと思います。皆さんは一人ではありません。学校には皆さんを支えてくれる先生方がいます。困ったときや判断に迷ったときは先生方に相談してほしいです。担任の先生や各学年の先生、部活動の顧問の先生や保健室の先生、またスクールカウンセラーの先生を含めて東中には54名の先生方やスタッフがいます。皆さんをサポートしていきたいと考えています。共に頑張りましょう。



12月23日に生徒会と英語部の皆さんが台湾の桃園市立福豊国民中学とリモートで交流を行いました。詳しくは1月13日発行の生徒会新聞「決断」で報告してくれています。私も一緒に参加しましたが、両校の子どもたちは大変フレンドリーで、明るく積極的に交流していた姿が印象に残っています。



1月17日、阪神淡路大震災から28年目を迎えました。当日、先生方にはクラスで命の尊さについて話をしてくださいと伝えました。先生方の中には震災を直接経験していない先生も増えてきました。伝えていくこと、継承していくことの難しさや必要性を感じています。人権教育部の「なかま」でも詳しく書かれています。全校生徒に配布していますのでご一読ください。この震災での犠牲者は6434人と伝えられています。平成23年に起こった東日本大震災では津波などで2万2312名が死亡、行方不明と伝えられています。自然災害を避けることは難しくかもしれません。今朝の報道ではロシアのウクライナ侵攻による民間人の犠牲者は7000人を超えたと報道されていました。両国の軍人を含めると10万人以上の命が失われていると報道されており、正確な数は把握できないとのこと。死亡者の数だけでなく、負傷した人や被害に遭った人を含めると何倍になるのでしょうか。一発のミサイルで一瞬にして100人以上の命が奪われ、赤ちゃんや子どもまでが犠牲になっています。また、北朝鮮による日本海へのミサイル発射は昨年だけで76回もありました。1回のミサイル発射に係る費用は平均5億円と試算されています。北朝鮮の国民の多くは貧困生活に苦しんでいるといわれています。力を誇示するための行為もいつ収まるのかわかりません。これらのお金を貧困や教育を含めたことに使えないのでしょうか。国連ではSDGsが叫ばれ、地球規模での環境問題への取組や持続可能な社会の実現が掲げられていますが、だれもこの戦争やミサイル発射を止めることはできていません。そのような中ですが、本校生徒の活躍や台湾の中学生と交流する姿は将来の希望を感じさせてくれます。子どもたちのために平和で豊かな社会をつくっていくことが私たち大人の責務であると痛感しています。令和5年、気持ち新たに頑張りますので、よろしくお願いします。

※ 死者数は正確でない部分もあります。

東風(こち)、次回に続く

